

「恵まれた地域資源」を活用

しずおかで 開発された商品

静岡県には、“恵まれた地域資源”が数多くありますが、当たり前すぎて気付かないということも。静岡県では、この地域資源を活用した“産学民官金”が連携してのプロジェクトを進行し、生活に身近な商品も誕生しています。今回はその一部をご紹介します。(小林かおり記者)



写真提供：静岡県観光協会

1～3月の
必須アイテム



桜の開花を控えて心浮き立つ3月になりましたが、実はこの季節は「目や鼻がムズムズしてツライ…」という人も多いのでは。そこで注目したいのが、お茶の成分を利用して開発された関連商品です。

例えば、「焼津水産化学工業」は、紅茶ポリフェノール「テアフラビン(レッドカテキン®)」がウイロスの不活性化効果と抗菌効果を持つ、という

研究成果を生かし、レッドカテキン®を使用したマスクを開発しました！

一方、「お茶の荒畑園」は、目や鼻の不快感を軽減させる「メチル化カテキン」を成分に持つ「べにふうき緑茶」をより飲みやすくして、静岡茶では初の「機能性表示食品」として消費者庁に受理されました。

新商品！「レッドカテキン® マスク」

- 注目のレッドカテキン® フィルター使用
- ノーズフィッターでぴったりフィット
- 立体ブリーフ加工でゆったりしたつけ心地



ここに注目！

静岡県と静岡市は共同で、国立研究開発法人 科学技術振興機構の地域結集型研究開発プログラム「静岡発 世界を結ぶ新世代茶飲料と素材の開発」に挑戦。テアフラビン(レッドカテキン®)の分離・精製技術を確立しました。



【販売所】静岡県庁売店、ローソン静岡県庁西館、静岡県庁周辺のヤマザキデイリーストア
■商品の問い合わせ/焼津水産化学工業 ☎054(621)0133

機能性表示食品に認定！「べにふうき緑茶」

- 機能性表示食品
- 県産茶葉 100%使用(スティックタイプ、粉末茶、ティーパックタイプ)



ここに注目！

「べにふうき」は、紅茶品種「べにほまれ」と緑茶品種「枕Cd86」を掛け合わせた希少なお茶です。独自の製法で、べにふうきの特性を生かし、メチル化カテキン量を残しつつ、苦みが抑えられています。



■商品の問い合わせ(購入は下記ホームページから)/荒畑園 ☎0548(27)2517 <http://www.arahataen.com>

実はこれらの
取り組みには仕掛け人が

「レッドカテキン®マスク」の開発、「べにふうき緑茶」の機能性表示食品の届け出をサポートした組織。それが「公益財団法人静岡県産業振興財団 フーズ・サイエンスセンター」です。はたして、その実態とは？



産学民官金が連携した「フーズ・サイエンスヒルズプロジェクト」

「フーズ・サイエンスセンター」は、静岡県が展開する、「静岡新産業集積クラスター」の1つです。リビング静岡のほかにも、この組織に着目し、卒業論文のテーマに選んだ女子大生に基本的なことを話してもらいました。



話してくれた人

清水美紀さん
長野生まれの静岡育ち。静岡県立大学経営情報学部で地域経済について学び、静岡新産業集積クラスターを、卒業論文の研究テーマに選んだ

Q1 静岡新産業集積クラスターについて教えてください

県内の地域の特性を生かして「ファルマバレー(東部)」「フーズ・サイエンスヒルズ(中部)」「フォトンバレー(西部)」というプロジェクトがあり、総合して「静岡新産業集積クラスター」と呼ばれています。その中で、私は「フーズ・サイエンスヒルズ」の「フーズ・サイエンスセンター」に着目しました。

Q2 フーズ・サイエンスヒルズプロジェクトとは？

静岡県は、多様な農産物を栽培しています。この地域資源を活用した「新商品の開発」と「販路開拓」を目的に活動しているのが「フーズ・サイエンスセンター」です。同センターでは「静岡の経済発展と世界の人々の健康増進」を目標とする「フーズ・サイエンスヒルズプロジェクト」を展開。産学民官金が連携して、科学的根拠に基づく機能性食品や商品などの開発を行っているんですよ。

Q3 フーズ・サイエンスセンターの印象は？

他県の産業クラスターは研究することが主体になっている印象ですが、「フーズ・サイエンスセンター」は実際に商品開発につなげています。研究成果を発表するフォーラムでも、最後に楽しい交流会が開かれ、多分野の人たちを上手に顔つなぎをしています。

研究成果を今後の仕事に生かしてほしい

清水さんがこの研究を行ったのは、出席していたゼミの影響だったそうです。この研究を薦めた、静岡県立大学の西野勝明さんにお話を伺いました。「産業集積の機能に関心があるということだったので、集積内のコミュニティが果たす役割が、地域によってどのような違いがあるか、今まであまり解明されていないため、そこにフォーカスすることを薦めました。研究成果は卒業後の仕事にも生かされると思います。」



西野勝明さん
静岡県立大学経営情報学部経営情報学科 教授
経営情報イノベーション研究科 教授(兼務)

プロジェクトの成果品(一部)

フーズ・サイエンスヒルズプロジェクトの取り組みから産学民官金が連携した成果品



- 食品等開発研究会 ①静岡あんぱん(松田商店)
食品等開発助成事業 ②深海の黒びっかりいわし天(はの字食品)
③県立大アールグレイ(キムラ加工)
④グルテンフリー米粉パンミックス粉(ウェルビーフードシステム)

Point 静岡県は地域資源が多彩

静岡県は多彩で高品質な農林水産物の宝庫で高度な食品加工技術を持ち、食品関連産業が集積しています。

- ・茶 --- 荒茶産出額 (全国 1位)
- ・ミカン --- 産出額 (全国 1位)
- ・わさび --- 産出額 (全国 1位)
- ・サクラエビ --- 駿河湾のみで漁獲
- ・カツオ --- 漁獲量 (全国 1位)
- ・レトルト食品 --- 出荷額 (全国 1位)
- ・ツナ缶詰 (マグロ類・カツオ類) --- 生産量 (全国 1位)
- ・栄養補助食品 (カプセルなど) --- 出荷額 (全国 1位)

センターの活動を「見せる化」に

「フーズ・サイエンスヒルズプロジェクト」はこれから推進していかなくてはならない活動の一つです。今後の活動について、同プロジェクト推進部長の岩崎正さんにお話を伺いました。「行政の予算もスタッフも限りがありますが、共感と支持で増やしたファンの方の分だけ力は増大します。みなさん一人一人の意識の高まりがプロジェクトの最高の推進剤。感じて動く、一人でも感動し、一つでも行動に移してくれたとき、明日は変わると思うのです。そのためにはセンターの活動を“見える化”するだけでなく、いかに“見える化”していくかが大事ですね。開発した魅力的な商品の販路拡大に、つなげていきたいと思っています」



岩崎 正さん

取材協力/
公益財団法人静岡県産業振興財団フーズ・サイエンスセンター
☎054(254)4513 <http://www.fsc-shizuoka.com/>